

まえがき

地球でたった5～6%という地中海性気候の地、南カリフォルニア、ロサンゼルスで書いています。

不思議なこと、おまじないや縁起担ぎのようだと思われる方もいるかもしれません。ありきたりの開運法も混じっているかもしれません。でもそれらは、私が密かにずっと試してきて効き目を感じたことだけを書いています。

「“運”が人生での重要なポイント」なんてことにはまったく疎い生活でした。重なって問題が起きても、苦しくても「悪いことが起きるのは当たり前、気にしている場合じゃない、負けないで頑張るだけ。」と自分に言い聞かせながら歩んでいました。

不運が始まるとき、初めのうちはその傾斜が緩いですが次第に角度を増していくようです。27歳から始まった不運の坂は、滑り出しは傾斜が緩かったので気にも留めずにいました。そのうち不吉なことがひとつふたつと重なって起きはじめます。それでもまだ「偶然！ 偶然！」と気にせず、頑張ればなんとかなるとひたすら走りつづけてあっという間に二十数年。後半はまるで泥沼に

ハマってしまった車のようでした。泥の中で必死にエンジンをふかし空回りさせます。平気で周囲に泥を蹴散らし、ただただアクセル全開でふかしつづけました。明らかに運が落ちている人の共通点は「頑張ります！」と言いつづけ、他からの話に耳を傾けようとしません。

今の仕事が目の前に現れた瞬間、手を伸ばしたのがラッキーだったのか、その直後から己の『不運』と『改善策』に気がつき、早十余年になります。もし、ご自分の『不運』に気がつき、この本を手にしたならあなたの運のベクトルはすでに上向きになりはじめているのでしょう。もしかすると、この本を注文されたときから始まっているのかもしれない。

読むペースはご自由に。でも、読み終えても70日間以上はこの本を手元に置いてください。

さあ、一緒にスタートです。

